

日常を十七音で

〜テーマから俳句を作ろう〜



俳句とは……

季語を入れながら、五・七・五の十七音で光景や気持ちを詠み、その感動を伝える詩の形式の一つです。

最近、テレビ番組でもよく見かけますね。

季語とは……

- ・ 季節を表す言葉のこと。
- ・ 俳句を詠むときは、季語を入れることがルールとされている。
- ・ 基本的に、『春といえば』『夏といえば』と、季節が連想される言葉が多い。
(例外もあります)

【例】春の季語（春全般に関するもの）

春（『春の〇〇〇』『春〇〇〇』も春の季語）

【様子】 暖か（あたたか）、風光る、霞（かすみ）

【物】 風船、風車（かざぐるま）、ぶらんこ

【鳥】 うぐいす、きじ、ひばり、鳥の巣、巣箱

【貝】 さざえ、あさり、はまぐり、しじみ

【その他の生き物】 かえる、はち、ちよう

【植物・花】 つばき、すみれ、たんぽぽ、なずな

など

（教科書六一ページも参考に！）

【例】夏の季語（六月ごろに関するもの）

【時期・行事】

梅雨、梅雨晴れ（梅雨の時期の晴れ）

出水（梅雨の大雨で洪水のようになること）

田植え

【植物・花】

かきつばた、あやめ、あじさい、青梅、

さくらんぼ、びわ、あんず

【生き物】

ほたる

【その他】

かび

など

（教科書六一ページも参考に！）

俳句の作り方

- ① 材料となる言葉を集める。
- ② 五・七・五のリズムで組み立てる。
- ③ 表現を工夫する。

(★ここがポイント！)

教科書六〇〜六三ページも参考に！

俳句作りのポイント

① 自分の体験したことで作る！

・見たり、聞いたり、さわったりなど、自分の五感で経験したことだと、俳句が作りやすいです。

・逆に、想像したことでは、どんな言葉を使えばいいか、分からなくなります。

俳句作りのポイント

② 『音数』に気を付ける！

・音数とは、文字の通り『音の数』のことです。声に出しながら数えると分かりやすいですよ。例えば、『車（くるま）』なら二音です。

・小さい『や・ゆ・よ』は、前の音と合わせて一音で数えます。『今日（きょう）』なら、『きよ・う』で二音です。

・小さい『つ』や、のばす音（ー）は、それだけで一音です。『サッカー』なら、四音です。

俳句作りのポイント

③ 言葉を工夫する！

- ・ 『たとえ』を使ってみる。
- ・ 音を言葉で表現してみる。
- ・ 言葉の順序を工夫する。
- ・ ひらがな、カタカナ、漢字を使い分ける。
(漢字で書けるけど、あえてひらがなを使うとか)

課題のテーマ

『五く六月に見られる・感じられるもの』



井戸田先生（五年一組）の作品

コロナ禍の

ゲーム画面と

卯月雲（うづきぐも）

コロナウイルスの関係で、外に出ることができず、家でゲームをするのにも少しあきてきました。外は四月〜五月の過ごしやすい空模様。一日でも早く普段通りの生活が戻ってきてほしいなと期待をこめ、この句を詠みました。

吉田先生（五年二組）の作品

雨上がり

虹を探して

歩く道

雨上がりに、息子と二人で散歩をした事を
思い出しながら詠みました。いつまで一緒に
虹を探しながら歩いてくれるかな？と思いな
がら……。

世古口先生（六年二組）の作品

大空を

無邪気に泳ぐ

こいのぼり

今の時期、こいのぼりをたくさん見かけます。風にゆれるこいのぼりが、大きな川を無邪気に元気よく泳いでいるように見えたので、この句を詠みました。